

28. 高齢者介護予防健診における Up&Go テストの有用性

についての検討:地域在住高齢者における検討

宮野伊知郎¹⁾、西永正典²⁾、高田淳²⁾、清水祐司²⁾

奥宮清人³⁾、松林公蔵⁴⁾、安田誠史¹⁾、土居義典²⁾

¹⁾ 高知大学医学部予防医学・地域医療学(公衆衛生学)

²⁾ 高知大学医学部老年病・循環器・神経内科学

³⁾ 総合地球環境学研究所

⁴⁾ 京都大学東南アジア研究センター

【目的】地域在住の ADL の自立した高齢者における、Up&Go テストと予後および ADL 悪化との関連について検討することにより、高齢者介護予防健診における Up&Go テストの有用性を検討した。

【方法】対象は、基本的 ADL の自立した高知県 K 町在住の 65 歳以上の高齢者 943 人(平均年齢 77 歳、男性 371 人、女性 572 人)。平均 6.6 年、予後および ADL を追跡調査した。

【結果】観察期間内の死亡者は 99 人、ADL 悪化者(死亡前の ADL 悪化も含む)は 445 人であった。Up&Go テスト 16 秒以上において 16 秒未満より、死亡率の有意な増加を認めた(42% v.s.15%, $p < 0.0001$)。Cox 比例ハザードモデルにおける検討では、Up&Go テスト 16 秒以上は死亡の独立した関連因子であった(H.R.=2.3, 95%C.I.=1.4-3.9, $p=0.001$)。ADL 悪化についての検討では、Up&Go テスト 12 秒を超えると、ADL 悪化者の増加を認め、特に 16 秒以上では約 70% が ADL 悪化を認めた。Cox 比例ハザードモデルにおける検討では、12 秒未満に対し、12 秒以上(H.R.=1.5, 95%C.I.=1.2-2.0, $p=0.001$)、および 16 秒以上(H.R.=2.5, 95%C.I.=1.9-3.3, $p < 0.0001$)は ADL 悪化の独立した関連因子であった。

【まとめ】地域在住の ADL の自立した高齢者において、Up&Go テストは生命予後および機能予後の独立した予知因子であり、高齢者介護予防健診における有用な要介護のスクリーニングテストであることが示唆された。